第1回 妊娠出産子育て 基本調査

＜はじめてのペアレンティング研究会＞

＊調査検討委員会メンバー＊

- **小林登**（委員長・ベネッセ次世代育成研究所所長 東京大学名誉教授、国立小児病院名誉院長）
- **大日向雅美**（恵泉女学園大学大学院教授）
- **榊原洋一**（お茶の水女子大学教授）
- **菅原ますみ**（お茶の水女子大学教授）
- **丸　光恵**（東京医科歯科大学准教授）
- **岡田晴奈**（ベネッセ次世代育成研究所代表取締役社長）
- **後藤憲子**（ベネッセ次世代育成研究所主任研究員）

＊ワーキンググループメンバー＊

- **菅原ますみ**（お茶の水女子大学教授）
- **酒井　厚**（山梨大学准教授）
- **松本聡子**（お茶の水女子大学講師）
- **高岡純子**（ベネッセ次世代育成研究所 主任研究員・調査事務局）
- **持田聖子**（ベネッセ次世代育成研究所　研究員・調査事務局）

「第1回 妊娠出産子育て基本調査」報告書（仮）は、2007年10月に刊行予定です

本調査の詳細な分析をまとめた「第1回 妊娠出産子育て基本調査」報告書（頒布価格未定）を、2007年10月頃に刊行する予定です。この報告書の購入申込は、ベネッセ次世代育成研究所のHPからできます。発刊次第、お送りいたします。なおこの報告書は書店ではお求めになれません。直接、ベネッセ次世代育成研究所にお申し込みください。

ベネッセ次世代育成研究所とは

ベネッセ次世代育成研究所は、子どもや家族が「よく生きる」ことを支援するために、子ども学・ペアレンティング学などに関する調査・研究を実施し、社会への還元などを目指すことを目的としています。今までに「乳幼児の父親についての調査」「乳幼児とメディア視聴についての調査・研究」等に取り組んでいます。研究所の詳細については、HPをご覧ください。

http://www.benesse-jisedaiken.co.jp/

（各種検索エンジンで「ベネッセ次世代育成研究所」で検索してください）

ご意見をお聞かせください。

この調査に関するご意見・ご感想を、ベネッセ次世代育成研究所のHP（調査や調査報告書に関するお問い合わせ）で受け付けております。

なお本調査に関するお問い合わせは、下記までお願いします。

〒101-8685　東京都千代田区神田神保町1－105　神保町三井ビルディング15階
（株）ベネッセ次世代育成研究所　「妊娠出産子育て基本調査」係
TEL：03－3295－0294　　FAX：03－3518－2553
受付時間／10：00～17：00（土・日・祝日を除く）

「第1回 妊娠出産子育て基本調査」速報版
発行日：2007年5月30日　　発行・編集人：岡田晴奈
発行所：㈱ベネッセ次世代育成研究所
7TH003　　この冊子は、再生紙を使用しています。

速報版

Benesse® 次世代育成研究所

第1回 妊娠出産子育て 基本調査

妊娠・出産・子育てという家族にとっての大きなイベントの中で、はじめての子育てに臨む妻と夫は、どのようなことにポイントをおき、子育ての環境を準備すればよいでしょうか

私たちは、妊娠期から2歳までの子どもを持つ保護者（妻、夫）を対象に、よりよい妊娠・出産・子育てのあり方を探ることを目的として、今回の調査を行いました。今回お届けする速報版は、この調査結果の中からいくつかのデータを取り上げてご紹介するものです。

今回の調査のポイント

- ●妊娠期から育児期におけるクオリティ・オブ・ライフ（＊1）と子育ての環境との関連性
- ●子育ての環境の実態と妻・夫の意識
- ●夫婦関係、子育てのストレスと子育てへの影響
- ●ワークライフバランスに対する考え方と実態
- ●妊娠・出産の実態、親準備性について
- ●子育てに対する期待と不安

（＊1：QOLについては次ページをご覧ください）

＊『ベネッセ次世代育成研究所』については、最終ページをご覧ください。

株式会社ベネッセコーポレーション　　株式会社ベネッセ次世代育成研究所

調査概要

調査テーマ … はじめて子どもを持つ夫婦の妊娠期から育児期における家族のQOL*と子育ての環境との関連性、生活の実態など。

調査方法 … 郵送法（自記式アンケートを郵送により配布・回収）

調査時期 … 2006年11月2日～17日

調査対象 … 第一子を妊娠中（後期）の妻・夫 ※データ説明では「妊娠期妻」「妊娠期夫」と表記。
０～２歳の第一子を持つ妻・夫 ※データ説明では「育児期妻」「育児期夫」と表記。

調査地域 … 日本国内全域

サンプル数 … 配布数　16,000通
回収数　5,773通
回収率　36.1%
本速報版の標本数（第一子を持つまたは妊娠中の妻・夫）4,479名

	妊娠中	子どもの年齢 0 歳	1 歳	2 歳	合 計
妻	728	832	623	405	2,588
夫	575	602	438	276	1,891
合 計	1,303	1,434	1,061	681	4,479

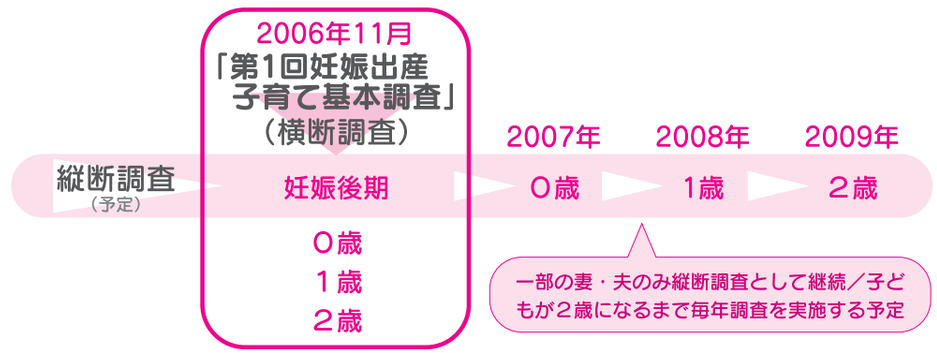
調査項目 … 妊娠・出産の経緯、親準備性、家庭での養育機能、夫婦の相互サポート、夫婦の愛情関係、親と子のQOL*、子育てのストレス、ワークライフバランス、子どもの行動の特徴

＊WHO（国際連合世界保健機関） QOLについて

QOL（クオリティ・オブ・ライフ、生活の質）とは、人々が感じている自分自身の生活の良質さのことです。『WHO QOL26』は、国際連合世界保健機関（WHO）が定義する“健康”（身体的、精神的、社会的に良好な状態にあること）の概念に沿って作成されました。今回の調査で使用したWHO開発の『WHO QOL26』質問項目は、出版元、株式会社金子書房の許可を得て使用しました。

本調査の枠組み

2006年度に横断調査で妊娠後期～子どもが2歳までの家族の実態を把握し、2007年度以降は、2006年度調査で妊娠後期だった人を追跡し、親性の発達プロセスを追っていきます。

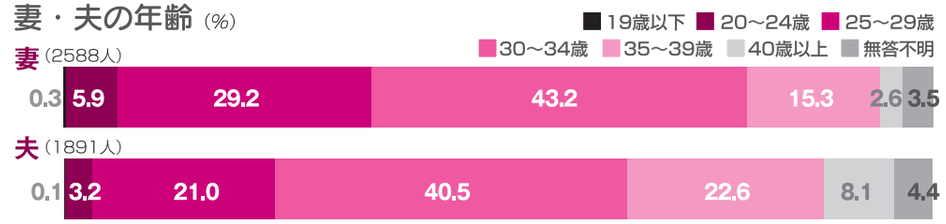


＊本調査についての詳細な分析は、「第1回妊娠出産子育て基本調査」報告書（2007年10月刊行予定）にて報告する予定です。

＊縦断調査の対象者は、2006年11月に実施した「第1回妊娠出産子育て基本調査」の妊娠後期の回答者のうち、縦断調査の承諾を得た夫婦およびその後追加で調査に参加した夫婦約400名（予定）。

サンプルの属性

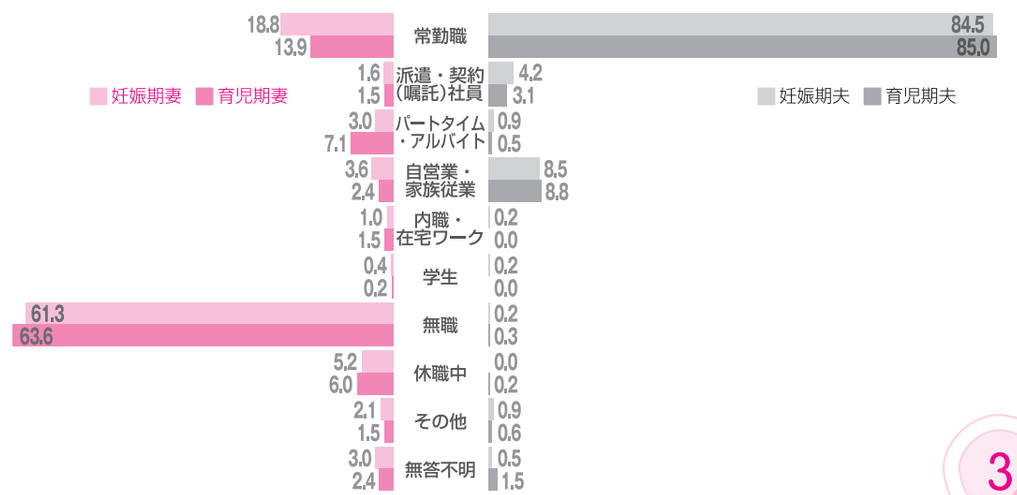
妻・夫の年齢（%）



＊速報版での分析データは、カップルでのマッチングは行っていないため、妻と夫で有効回答数が異なります。

子どもの年齢（%） ※育児期妻

妻・夫の現在の職業（%）

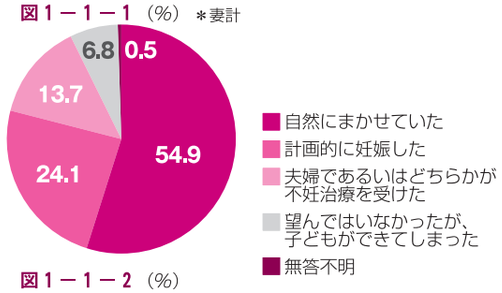


第1章 子育て環境の実態と意識

1. 妊娠の経緯

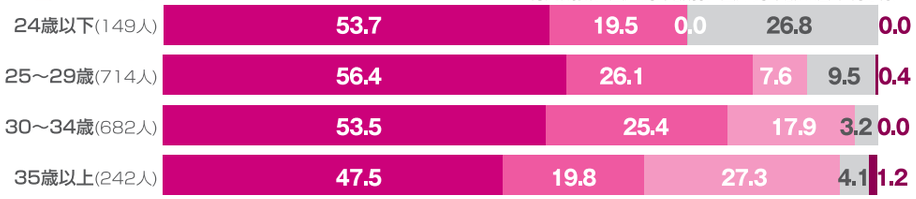
Q 今回の（○○ちゃんの）妊娠について、あてはまる番号1つに○をつけてください。

図1－1－1（%）＊妻計



第一子を妊娠中、または出産をした家庭の半数以上は、妊娠の経緯を「自然に任せていた」と回答している。計画的な妊娠は24.1%、不妊治療によって子どもを授かった家庭は13.7%である。女性の年齢が上がると、不妊治療による妊娠率が増加し、予定外の妊娠が減少する。

図1－1－2（%）＊育児期妻、出産時年齢別、出産時年齢無答不明は除く



出産を決めた理由

Q おなかの赤ちゃんの（○○ちゃんの）出産を決めた理由についておうかがいします。

表1－1－1（%）＊複数回答

	妻計	夫計
自分の子どもが欲しかったため	79.7	82.3
好きな人との子どもを持ちたかったから	59.8	52.8
結婚して子どもを持つことは自然なことだから	54.7	59.1
子どもがいると生活が豊かになり楽しくなると思ったから	51.9	48.5
年齢的によいタイミングと感じたため	44.9	39.1
年齢的にリミットを感じていたため	23.5	15.1
夫婦２人の生活を十分楽しんだから	19.5	9.9
自分よりも配偶者の方が子どもを欲しがっていたため	11.2	14.6
子どもは予定外だったが、出来てしまったため	10.9	5.9
子どもは夫婦関係を安定させるため	8.8	9.9
やりたいことはすべてやったため	8.2	2.5
子どもは将来の社会の支えとなるため	7.0	13.3
子どもは自分たちの老後の支えになるため	5.2	5.9
仕事上、タイミングがよかったから	4.8	1.6
経済的に子どもを持てるようになったから	4.4	6.9
跡継ぎが必要だったため	3.0	6.0
その他	3.6	1.2

出産を決めた理由について、妻と夫で回答率に大きな差があるのは、「年齢的にリミットを感じていたため」（妻23.5%、夫15.1%）と「夫婦2人の生活を十分楽しんだから」（妻19.5%、夫9.9%）である。

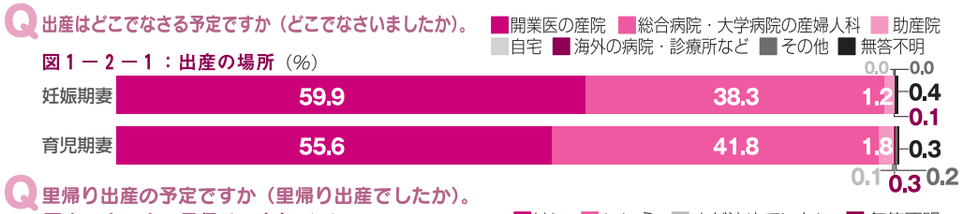
第一子の出産を決めた理由は、妻･夫ともに、「自分の子どもが欲しかったため」「好きな人との子どもを持ちたかったから」「結婚して子どもを持つことは自然なことだから」「子どもがいると生活が豊かになり楽しくなると思ったから」が上位４項目であった。次いで、年齢的な理由が続く。妊娠期の妻と夫で妊娠時の年齢別にみてみると、「年齢的によいタイミング」と答えている割合は、妻は25～29歳（64.4%）、夫は30～34歳（51.8%）がもっとも多かった。また、「年齢的なリミット」を理由に挙げている割合は、妻･夫ともに35歳以上がもっとも多かった（妊娠時年齢を「24歳以下」「25～29歳」「30～34歳」「35歳以上」で比較）。

2. 出産の場所と選んだ理由

病院（開業医の産院、総合病院など）での出産を予定している妊娠期妻は98.2%、実際に出産した育児期妻は97.4%であった。出産に際しては、妊娠期妻の34.6%が里帰りを予定し、41.9%の育児期妻が里帰りをしている。妊娠期妻が出産する施設を決めた理由は、自宅（または里帰り先）から近いこと、評判がよいこと、設備やサービスの充実、総合病院で小児科も併設していること、が主なものである。出産する施設が自宅や里帰り先の近くにあるということが選択理由として突出している。

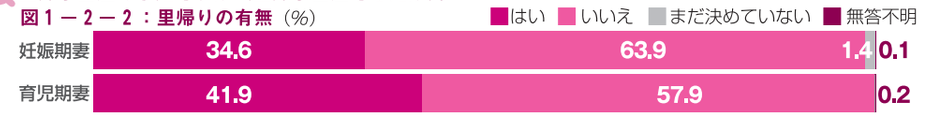
Q 出産はどこでなさる予定ですか（どこでなさいましたか）。

図1－2－1：出産の場所（%）



Q 里帰り出産の予定ですか（里帰り出産でしたか）。

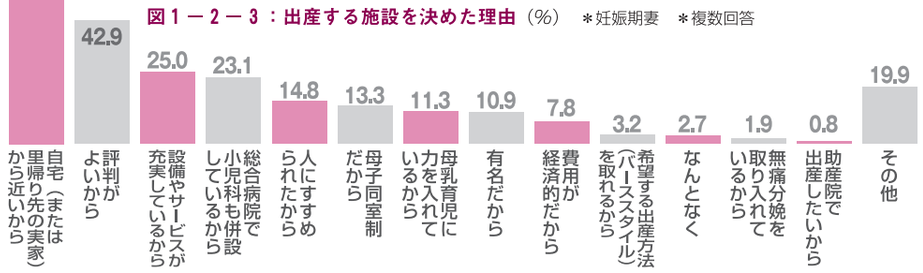
図1－2－2：里帰りの有無（%）



＊「まだ決めていない」は、妊娠期妻のみの項目

Q 出産する施設を決めた理由について、あてはまる番号すべてに○をつけてください。

図1－2－3：出産する施設を決めた理由（%）＊妊娠期妻 ＊複数回答

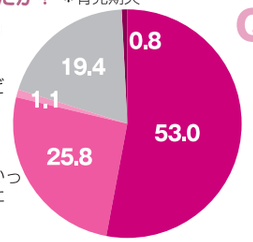


夫の出産への立ち会い

53.0%の夫が初めての子どもの出産に立ち会っている。「したかったけれどできなかった」人も加えると、８割弱の夫が出産への立ち会いを希望している。妊娠期の妻・夫とも半数以上の人が立ち会いを希望しており（「あてはまる」「ややあてはまる」）、妻が夫の立ち会いを希望する割合と、夫自身が立ち会いを希望する割合は、ほぼ一致している。

Q ○○ちゃんの出産の際、立ち会いをしましたか？＊育児期夫

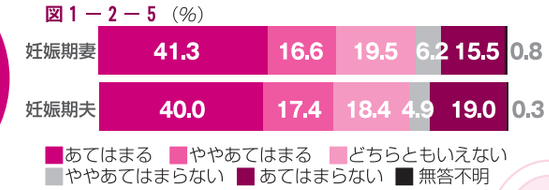
図1－2－4（%）



Q 私は、配偶者に出産に立ち会ってほしいと思っている（妊娠期妻）

Q 私は、出産への立ち会いを希望している（妊娠期夫）

図1－2－5（%）



3. 親になる準備

Q 子どものころから今までに赤ちゃん（ご夫婦のお子様は除く）に身近に接したり世話をする機会がありましたか？

図１－３－１（%）＊妻計

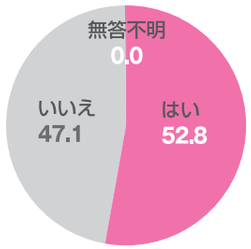
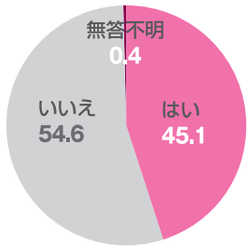


図１－３－２（%）＊夫計

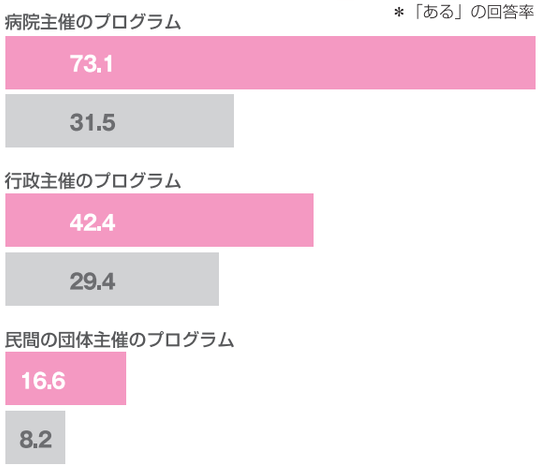


初めての子どもを迎える妻と夫は、妻の47.1%、夫の54.6%が、赤ちゃんと身近に接したり、世話をしたりする経験がないまま、出産を迎える。

妊娠や出産準備に関するプログラムへの参加

Q 地域や民間の団体が主催している妊娠や出産準備に関するプログラム（母親/父親学級、学習会やセミナーなど）に参加されたことがありますか（参加したことがない・ある）。

図１－３－３（%）　■妊娠期妻　■妊娠期夫
＊「ある」の回答率



妊娠期で、妊娠や出産準備に関するプログラム（母親/父親学級、学習会、セミナーなど）に参加したことがある割合は、妻の方が夫に比べて多く、病院主催のプログラムは73.1%の女性が参加している。グラフには示していないが、参加したプログラムに対する妊娠期妻の満足度は高く、病院主催のプログラムは87.4%、行政主催のプログラムは87.0%、民間の団体主催のプログラムは81.8%であった(「非常に満足した」「まあ満足した」)。育児期妻に妊娠中の母親学級への参加について聞いたところ、参加した人は85.9%に上った。また、約半数の人が配偶者と2人で両親学級に参加していた。

Q あなたは、妊娠中に病院や地域主催の母親学級に参加したことがありましたか。

Q あなたは、妊娠中に配偶者と２人で病院や地域主催の両親学級に参加したことがありましたか。

図１－３－４（%）　＊育児期妻　■はい　■いいえ　■無答不明

4. 妊娠・出産や子育ての情報源は、雑誌、インターネット

妊娠・出産や子育ての情報源として何を活用しているかについて聞いたところ、妊娠・出産に関する情報源（妊娠期）では、雑誌、インターネット、メーカーカタログ・通信販売カタログが上位にきている。子育てに関する情報源（育児期）では、妻・夫ともに1位雑誌、2位テレビ・ラジオ、3位インターネットであった。

Q 妊娠・出産（子育て）に関する情報を得るために利用したことがあるものを選んでください。

図１－４－１：妊娠・出産に関する情報源（%）

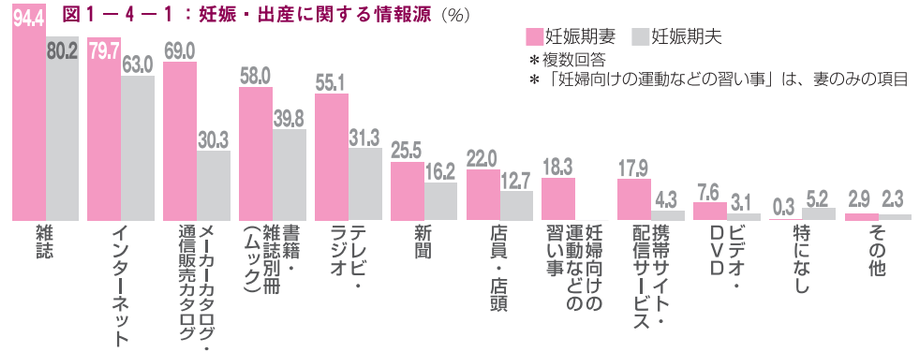
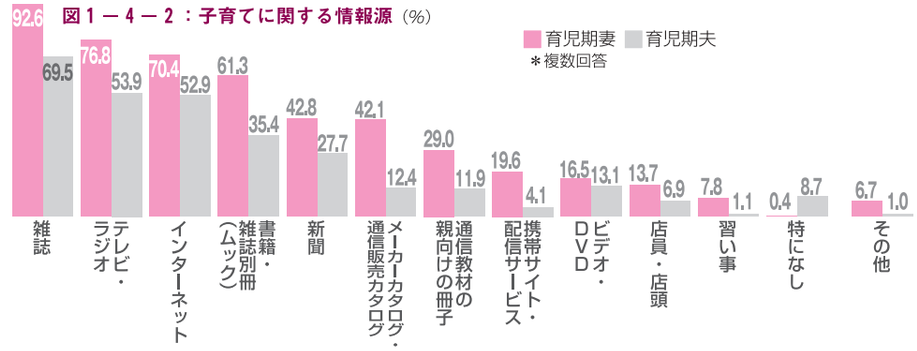


図１－４－２：子育てに関する情報源（%）



妊娠期と育児期で、それぞれ妊娠・出産や子育てにどのような情報源を活用するかを聞いた。全体として、夫よりも妻のほうがすべての情報源で、より多く活用している。

妊娠・出産に関する情報源では、妻では1位雑誌(94.4%)、2位インターネット(79.7%)、3位メーカー・通信販売カタログ(69.0%)で、夫では、１位雑誌(80.2%）、2位インターネット（63.0%)、3位書籍・雑誌別冊（ムック）(39.8%)である。妻と夫で情報源に20%以上の差がでているのは、メーカーカタログ・通信販売カタログ（妻69.0%、夫30.3%）、テレビ・ラジオ（妻55.1%、夫31.3%）となっている。

一方、育児期の子育て情報源については、妻・夫ともに、1位雑誌(妻92.6%、夫69.5%)、2位テレビ・ラジオ（妻76.8%、夫53.9%)、3位インターネット（妻70.4%、夫52.9%）である。妻と夫で情報源で20%以上の差が出ているのはメーカーカタログ・通信販売カタログ（妻42.1%、夫12.4%)、書籍・雑誌別冊（ムック）（妻61.3%、夫35.4%）、雑誌（妻92.6%、夫69.5%）、テレビ・ラジオ（妻76.8%、夫53.9%）である。

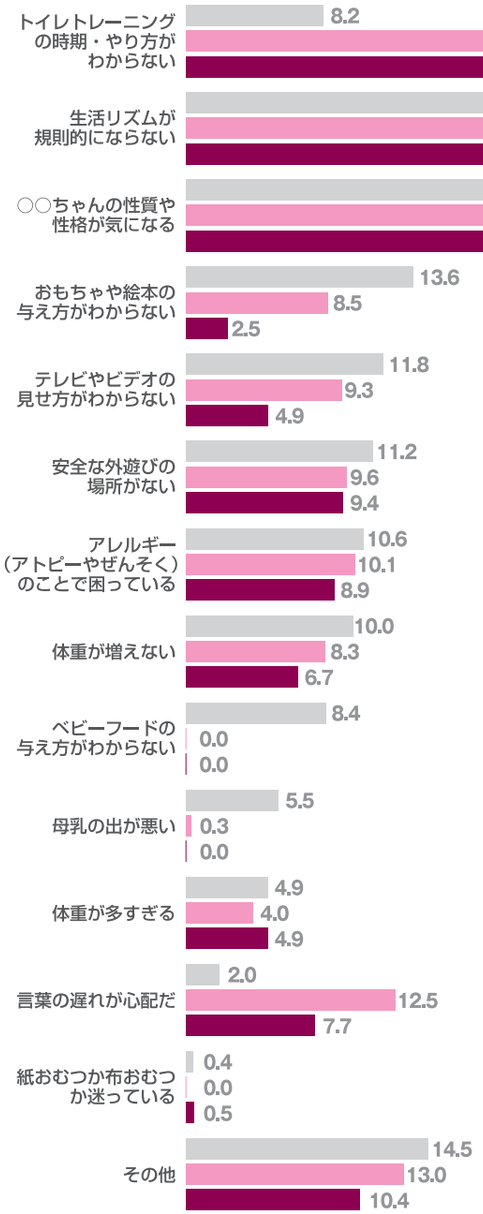
妊娠期には、メーカーカタログ・通信販売カタログを、約7割の妻が情報源として活用しているのに対して、育児期の妻では４割強の活用にとどまる。逆に、テレビ･ラジオは、育児期では76.8%の妻が活用しているが、妊娠期では55.1%の活用となっている。

5. 子育ての悩みは子どもの年齢で異なる

「子育ての悩み」について育児期の妻に聞いたところ、「トイレトレーニングの時期・やり方がわからない」「生活リズムが規則的にならない」「○○ちゃん（子ども）の性質や性格が気になる」など子どもの生活習慣や行動の特徴に関することが多い傾向にあった。その他の悩みに関してはおおむね0歳の母親の悩みが高く、子どもの年齢が上がるにつれて徐々に低くなっていた。

Q ○○ちゃんのことで悩んでいることはありますか。 ＊育児期妻

図１－５－１：子育ての悩み（子どもの年齢別）（%）　0歳　1歳　2歳　＊複数回答



年齢別に見ると、０歳での上位4項目は「生活リズムが規則的にならない」(24.9%)、「○○ちゃんの性質や性格が気になる」(19.6%)、「おもちゃや絵本の与え方がわからない」(13.6%)、「テレビやビデオの見せ方がわからない」(11.8%)であった。おもちゃや絵本の与え方、テレビやビデオの見せ方に関する悩みは、子どもの年齢が上がると減少していく傾向にある。１、２歳では、「トイレトレーニングの時期・やり方がわからない」（１歳35.2%、2歳35.6%）、「生活リズムが規則的にならない」（１歳21.3%、2歳29.6%)、「○○ちゃんの性質や性格が気になる」(１歳26.2%、2歳28.4%)などが多い。子どもの成長・発達に合わせて悩みの内容がかわる。言葉の遅れについての心配は、１歳で最も高くなっている（12.5%)。

6. 育児休業の取得希望と実態・職場での経験

育児休業の取得希望について仕事を持っている妻・夫に聞いたところ、妊娠期の妻で81.0%、夫は34.6%が「とりたい」と回答している。一方、育児休業をとった割合は、育児期の妻で50.5%、夫は1.0%であった。育児休業の取得の希望と実態にはギャップがある様子がうかがえる。

Q あなたは育児休業をとりたいですか、とったことがありますか。 ＊現在、仕事を持っていると回答した人のみ分析

図１－６－１：あなたは育児休業をとりたいと思いますか（%）

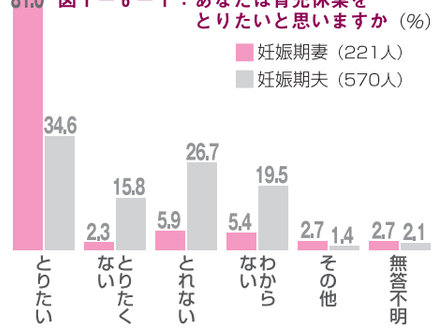
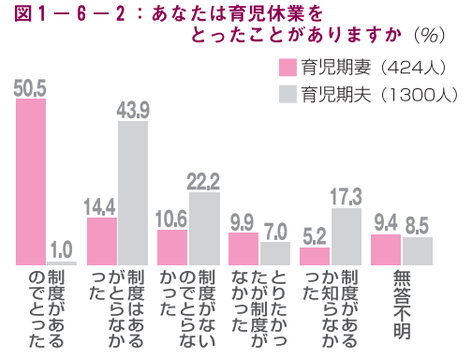


図１－６－２：あなたは育児休業をとったことがありますか（%）



妊娠期の夫では、育児休業を「とりたい」（34.6%）と回答した割合は、「とりたくない」（15.8%）を上回っている。また「とれない」と回答した人は26.7%おり、4人にひとりは何らかの事情で育児休業をとれないと考えていることが分かる。

育児期の夫では、「制度があるがとらなかった」と回答した人は43.9%と最も多かった。職場に育児休業制度が整っていても、制度を利用しない、またはできない人の割合は多い。また「制度があるか知らなかった」人は17.3%で、育児休業制度の有無を把握していない育児期の夫は約6人に1人であった。

現在、仕事を持っていると回答した育児期の妻では、約半数が育児休業をとっており、「制度はあるがとらなかった」人は14.4%であった。

Q あなたの仕事や職場で、最近１ヶ月の間にどのようなことを経験しましたか。

表１－６－１（%）

	育児期妻（424人）	育児期夫（1300人）
仕事が忙しすぎるので、子どもと過ごす時間が少ないと感じている	24.5	43.9
仕事と家事・育児の両立が大変で体を壊したことがある	22.6	2.6
通勤に時間や体力をとられる	19.3	20.5
子どもの病気などで急用が入ったとき、すぐに迎えにいけないことが多い	18.6	21.5
休日・休暇がとれない	12.0	25.3
上司とあわない	12.0	19.0
自分の裁量で仕事を進めることができない	10.1	15.9
家庭の事情に理解がない職場である	8.3	10.8
自分の能力が正当に評価されない	7.1	19.0
部下や同僚とうまくいかない	6.4	10.4

＊複数回答
＊現在、仕事を持っていると回答した人のみ分析
＊17項目中、妻の順位で、上位10位までを表示

仕事を持つ育児期妻・夫を対象に、最近１ヶ月間に仕事や職場で経験したことについて複数回答で聞いたところ、妻・夫ともに「仕事が忙しすぎるので、子どもと過ごす時間が少ない」が最も多かった。特に夫の場合は43.9%で、他の項目と比べて突出している。

7. 4～5割の男性は 仕事と家庭のバランスに不満

「仕事と家庭のバランス」について仕事を持っている妻・夫に聞いたところ、不満（「不満」「やや不満」）と思う割合は、妊娠期、育児期ともに妻よりも夫のほうが高い。もっとも満足（「満足」「やや満足」）の割合の高いのは妊娠期の妻（64.7%）でもっとも満足の割合の低いのは、育児期の夫（50.3%）であった。

Q あなたは仕事と家庭のバランスに満足していますか。

■満足 ■やや満足 ■やや不満 ■不満 ■無答不明

図1－7－1：仕事と家庭のバランス満足度（妊娠期妻・育児期妻）（%） ＊現在、仕事を持っていると回答した人のみ分析

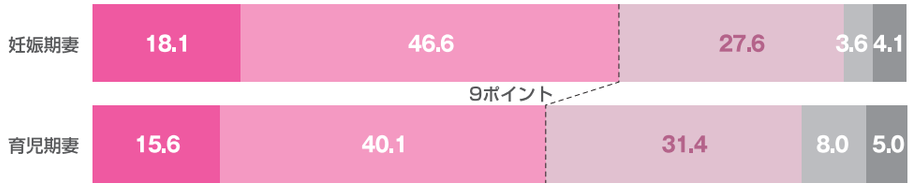


図1－7－2：仕事と家庭のバランス満足度（妊娠期夫・育児期夫）（%）

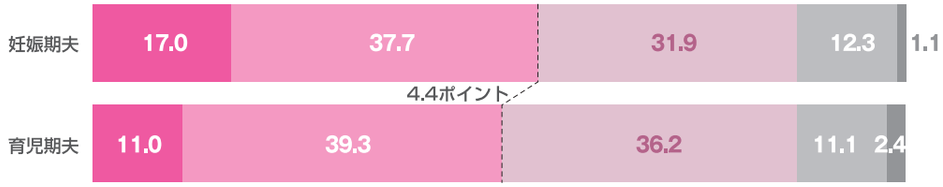
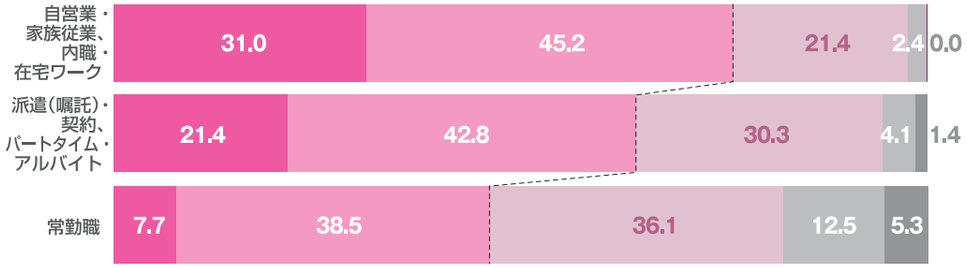


図1－7－3：仕事と家庭のバランス満足度（育児期妻職業別）（%） ＊現在、仕事を持っていると回答した人のみ分析



＊常勤職：208人　派遣・契約、パートタイム・アルバイト：145人　自営業・家族従業、内職・在宅ワーク：42人

仕事と家庭のバランス満足度について聞いたところ、不満（「不満」「やや不満」）は、妊娠期の夫で44.2%、育児期の夫で47.3%であり、どちらも妻よりも数値が高くなっている（妊娠期妻31.2%、育児期妻39.4%）。

満足度（「満足」「やや満足」）が最も高いのは、妊娠期の妻で、64.7%であった。妻の場合は、出産前と後で、満足度に9ポイントの差が出ている。

夫では、妻の出産前後での満足度差異は4.4ポイントだった。

仕事を持っている育児期の妻で職業別の仕事と家庭のバランス満足度を見たところ、満足度（「満足」「やや満足」）の高いのは、自営業・家族従業、内職・在宅ワーク（76.2%）、次いで派遣・契約社員、パートタイム・アルバイト（64.2%）、常勤職（46.2%）の順になっている。家庭と職場の距離、仕事時間の調整のしやすさ等が仕事と家庭のバランス満足度に影響を及ぼしているようである。

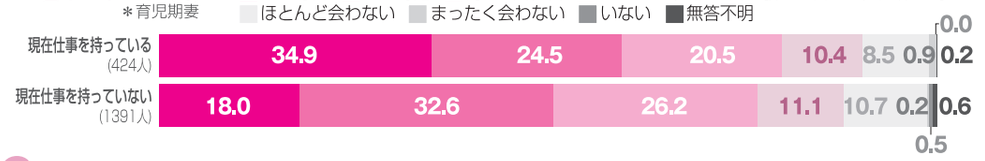
8. 親世代との交流

現在、仕事を持っている育児期妻と持っていない育児期妻の自分の両親と会う頻度を比べたところ（図1-8-1）、仕事を持っている妻は「ほぼ毎日」「ほぼ毎週」が合わせて59.4%、仕事を持っていない妻は50.6%であった。仕事を持っている妻のほうが8.8ポイント高い。また、自宅と妻の実家との距離を聞いたところ（図1-8-2）、仕事を持っている妻の13.7%は「同居・二世帯住宅・同じ敷地内」であった。「徒歩圏内」は14.2%で、いずれも仕事を持っていない妻と比べて高い。

Q ○○ちゃんとおじい様・おばあ様（あなたのご両親）はどのくらいお会いになる機会がありますか？

図1－8－1（%） ＊育児期妻

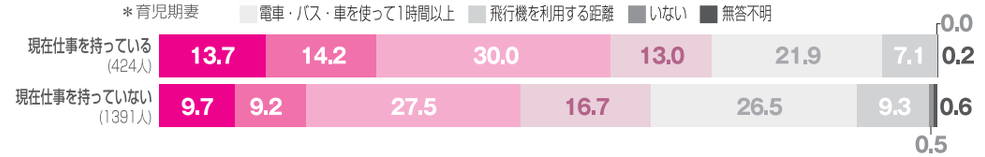
■ほぼ毎日 ■ほぼ毎週 ■月に1回程度 ■イベント（お誕生日、敬老の日など）、連休の時だけ ■ほとんど会わない ■まったく会わない ■いない ■無答不明



Q ○○ちゃんとおじい様・おばあ様（あなたのご両親）はどのくらいの距離に住んでおられますか？

図1－8－2（%） ＊育児期妻

■同居・二世帯住宅・同じ敷地内 ■徒歩圏内 ■電車・バス・車を使って30分以内 ■電車・バス・車を使って1時間以内 ■電車・バス・車を使って1時間以上 ■飛行機を利用する距離 ■いない ■無答不明



9. 子どもの定期的な預け先

託児施設や保育サービスなどに子どもを定期的に預けている人は、全体では18.0%である。子どもの年齢別では、1歳では25.0%、2歳では31.6%の家庭で定期的に子どもを預けている。母親の職業別にみると、常勤職や派遣・契約社員、パートタイム・アルバイトなど外勤の場合は、託児施設や保育サービスを定期的に利用している人が6割以上になるが、自営業や在宅ワークの場合は、外勤に比べて少なく、40.5%である。定期的に預けている場合の預け先は、公立認可保育所が34.6%、私立認可保育所が29.3%と、認可保育所がもっとも多かった。祖父母の家に定期的に預けている人は、16.4%みられた。

Q 現在、託児施設や保育サービスなどに定期的に○○ちゃんを預けていらっしゃいますか？

図1－9－1（%）＊育児期妻

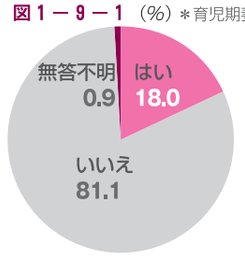


図1－9－2（%）＊育児期妻 ■はい ■いいえ ■無答不明

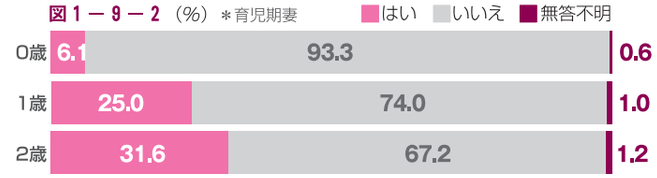
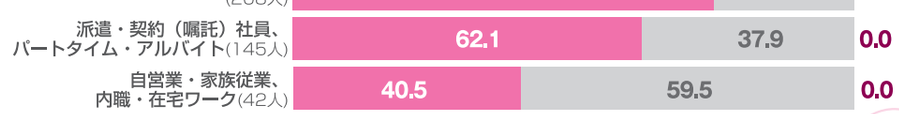


図1－9－3（%）＊育児期妻 ■はい ■いいえ ■無答不明



第2章 妊娠期・育児期のQOL

1. 夫婦のQOLの比較

第一子を妊娠中、または出産をした夫婦のそれぞれが評価するＱＯＬ指数（＊1：クオリティ・オブ・ライフ指数、自分自身の生活の良質さや健康さの評価）の値は一貫して夫よりも妻の方が高く、子どもが２歳でもっとも差が大きかった（図2-1-1）。また、妻・夫ともに、妊娠期と比べて、育児期のQOL指数の値は低下している。妻の場合は、育児期の間はQOL指数の値に大きな変化は見られない。一方、夫は、子どもの年齢が０、１、２歳になるにつれて、QOL指数の値は徐々に下がる傾向にある。

図２－１－１：QOL指数

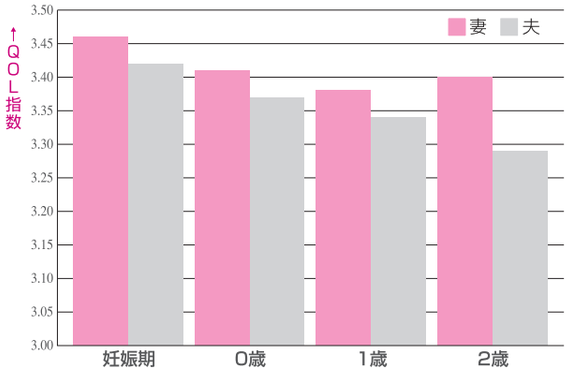


表２－１－１：QOL指数

	妻	夫
妊娠中	3.46	3.42
0歳	3.41	3.37
1歳	3.38	3.34
2歳	3.40	3.29

参考：WHO QOL26の一般人口における平均値は、20ー29歳では男性3.20、女性3.33、30ー39歳では男性3.17、女性3.28と報告されている。（中根他、1997）

＊「QOL指数」：
QOL全項目（26項目）の回答平均値。

WHO　QOL26の構成

QOLは、全部で26項目あり、全般的な生活の質について問う項目と、以下の４つの領域に分かれている。

＊身体的領域
- 体の痛みや不快感のせいで、しなければならないことがどのくらい制限されていますか。
- 睡眠は満足のいくものですか　他

＊心理的領域
- 毎日の生活をどのくらい楽しく過ごしていますか
- 自分自身に満足していますか　他

＊社会的領域
- 人間関係に満足していますか
- 友人たちの支えに満足していますか　他

＊環境領域
- 毎日の生活はどのくらい安全ですか
- 家と家のまわりの環境に満足していますか　他

［WHO　田崎美弥子　中根允文／監修『WHO　QOL26』（出版元　株式会社金子書房）より］

図２－１－２

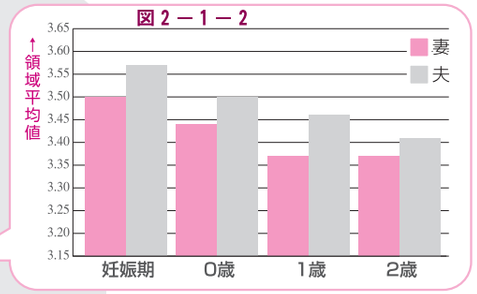
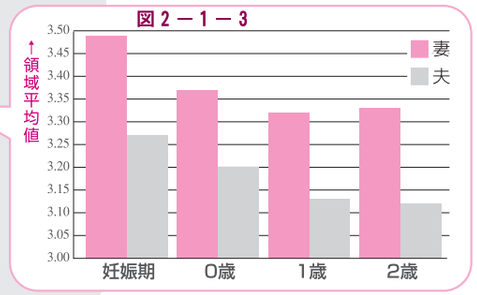


図２－１－３



＊「領域平均値」：領域ごとの得点の平均値。

領域ごとの傾向では、生活充実感や自己評価に関する心理的領域では、妻のほうが夫よりもQOL指数の値が低いが（図2-1-2）、対人関係に関する社会的領域では、一貫して妻のほうが夫よりもQOL指数の値が高く（図2-1-3）、良好な状態にあることがわかる。

2. 夫婦関係とQOL

自分から相手への情緒的サポート（仕事・家事・子育てについて相手をねぎらう）には夫婦間であまり差はないが、相手からの情緒的サポートについては一貫して妻の方が夫よりも割合が低かった。妊娠前や出産前と比較した配偶者への愛情関係では、妊娠前と後の愛情の変化は、妻・夫の間では差が見られないが、出産前と後の愛情の変化は、妻のほうが夫よりも「愛情が強くなった」割合が低かった（図2-2-3）。家事や子育てを分担し助け合っていると感じている夫婦のＱＯＬはそうでない群よりも良好で、夫婦ともに“親としてそれなりにうまくやれていると思う”と回答する割合（「あてはまる」「ややあてはまる」）もより高い傾向が示された（P14）。

図２－２－１：自分から相手へのサポート（%）
・私は、配偶者の仕事・家事・子育てをよくねぎらっている
＊「あてはまる」「ややあてはまる」の数値

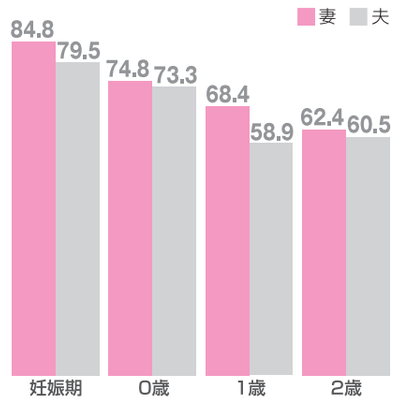
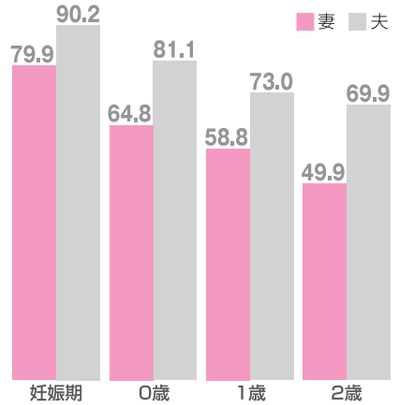
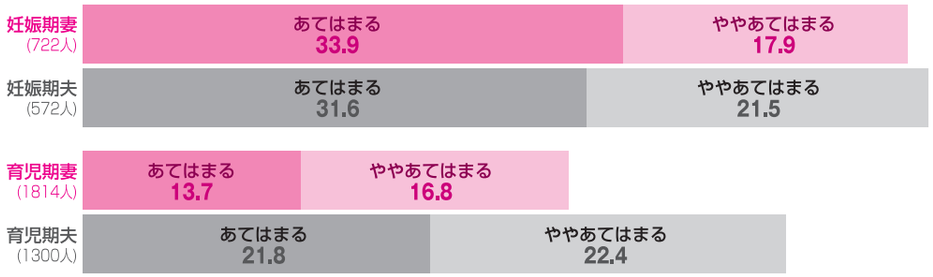


図２－２－２：相手から自分へのサポート（%）
・私の配偶者は、私の仕事・家事・子育てをよくねぎらってくれる
＊「あてはまる」「ややあてはまる」の数値



Q　○○ちゃんの妊娠前（妊娠期妻・夫）・出産前（育児期妻・夫）より、今のほうが配偶者に対する愛情は強くなった

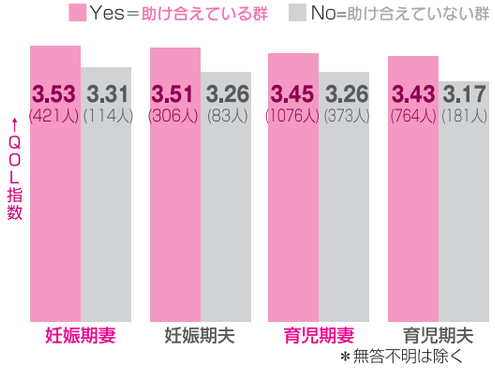
図２－２－３（%）＊無答不明は除く



- 妊娠前より相手に対する愛情が強くなった（「あてはまる」「ややあてはまる」）とする割合は、夫婦でほとんど差がない。
- 育児期では出産前より愛情が強くなった（「あてはまる」「ややあてはまる」）とする妻は、夫より13.7ポイント少なかった。

Q 私と配偶者は、子育てや家事などの分担に関してお互いに助け合っている

図２－２－６：夫婦の相互サポートとＱＯＬ



助け合って家庭生活を送っている夫婦のQOLは、そうでない夫婦よりも高い値を示し、親としての自信もより多く実感されている。

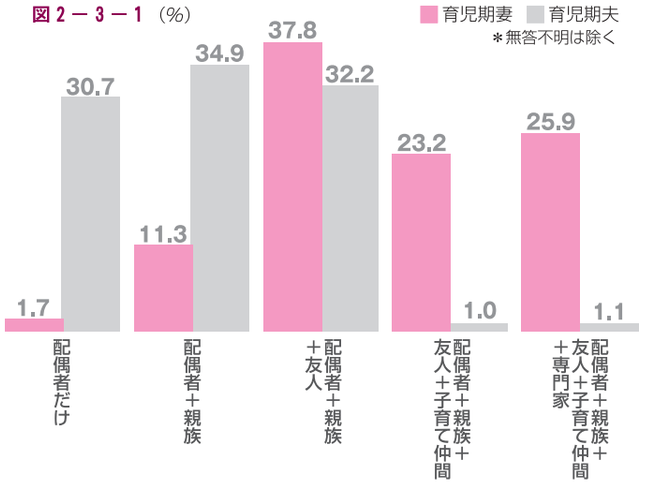
Q 親としてそれなりにうまくやれていると思う

3. 育児期の子育てサポート環境とQOL

近所（徒歩20分までの歩いて行ける範囲）に公園や子育て支援施設、小児科や産婦人科の病院がある群の方が夫婦ともＱＯＬが高かった。育児しづらい間取りや親のプライバシーを確保しにくい住居に住んでいる群の方がそうでない群よりもＱＯＬが低く、住環境の子育て利便性も関連要因のひとつであることがわかった。子育てのことを気にかけてくれる近隣の人がいることも親のＱＯＬと関連していた。

Q ○○ちゃんの妊娠・出産・子育てについて、相談したり、話し合ったりしたことがある人は誰ですか。

図２－３－１（%）



子育てについて相談できる人のネットワークは夫よりも妻の方が広く、またネットワークが広い人は夫婦ともQOLがより高かった。
配偶者だけに相談をしている人は、妻1.7%に対し、夫は30.7%だった。妻だけに相談している夫のQOLは3.28で、妻以外に相談相手を持っている夫3.40よりも低い値であった。

Q あなたのご近所（徒歩20分程度までの歩いて行ける範囲）の様子についておうかがいします。

表２－３－１

★ 住環境の子育て利便性：近隣 ★	育児期の妻のQOL ある　ない	育児期の夫のQOL ある　ない
お散歩できるような公園や遊歩道などが近所にある	3.43 > 3.28 (1346人) (428人)	3.36 > 3.28 (984人) (235人)
公共の子育て支援施設が近所にある	3.44 > 3.33 (1014人) (704人)	3.40 > 3.28 (645人) (447人)
小児科や子どもを診てくれる病院が近所にある	3.44 > 3.31 (1217人) (553人)	3.39 > 3.27 (833人) (371人)
自分（配偶者）のことを診てくれる産婦人科や助産院が近所にある	3.48 > 3.35 (659人) (1069人)	3.42 > 3.30 (508人) (643人)

Q あなたのご家庭の様子についておうかがいします。

表２－３－２

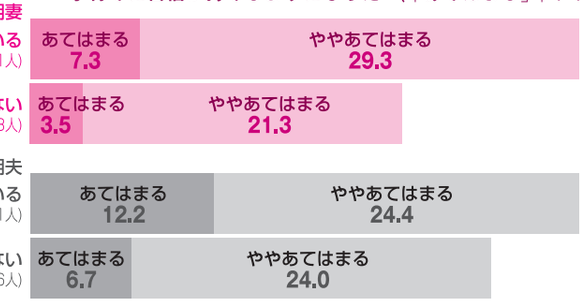
★ 住環境の子育て利便性：自宅 ★	育児期の妻のQOL はい　いいえ	育児期の夫のQOL はい　いいえ
夫婦2人で過ごすスペースを確保するのが難しい	3.28 < 3.46 (661人) (1109人)	3.24 < 3.41 (465人) (761人)
自分1人で過ごすスペースを確保するのが難しい	3.30 < 3.50 (957人) (817人)	3.25 < 3.43 (564人) (665人)
住居の間取りの使い勝手が悪く、家事や育児がしづらい	3.22 < 3.48 (566人) (1217人)	
家の中に子どもが遊べるスペースがあまりなくて苦労する	3.23 < 3.45 (451人) (1333人)	

Q 地域の中で、子どもを通じたおつきあいについておうかがいします。

表２－３－３

★ 地域サポート ★	育児期の妻のQOL 1人以上いる　いない	育児期の夫のQOL 1人以上いる　いない
○○ちゃんを預けられる人がいる	3.45 > 3.35 (768人) (1002人)	3.41 > 3.31 (505人) (718人)
○○ちゃんのことを気にかけて、声をかけてくれる人がいる	3.42 > 3.28 (1486人) (282人)	3.38 > 3.27 (912人) (309人)
子育ての悩みを相談できる人がいる	3.44 > 3.26 (1355人) (413人)	3.39 > 3.30 (656人) (569人)
子ども同士を遊ばせながら、立ち話をする程度の人がいる	3.44 > 3.26 (1311人) (458人)	3.40 > 3.31 (566人) (654人)

図２－３－２：地域の中での子育ての相談相手の有無と子育ての自信
“子育てに自信が持てるようになった”（「あてはまる」「ややあてはまる」）人の割合（%）　＊無答不明は除く



近隣に子育ての悩みを相談できる人が1人以上いる育児期の妻や夫は、相談できる人がいない場合よりも“子育てに自信が持てるようになった”とする割合が妻では11.8%、夫でも5.9%多かった。